



# 850

性差医療について

## 京都市男女共同参画推進課より

### 政策・方針決定過程での男女共同参画

#### ●京都市男女共同参画に関するアンケートから

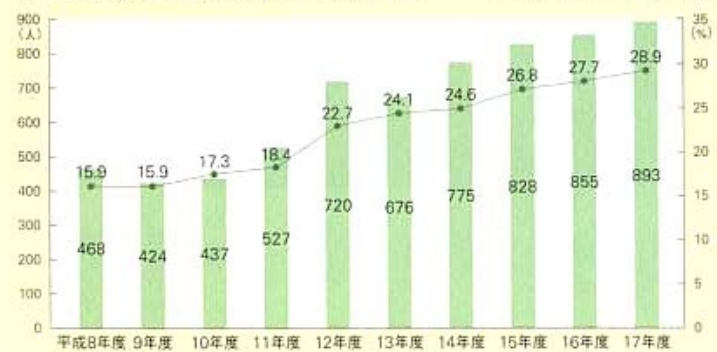
男女共同参画を推進するためには、政策や方針を決定する場に男女が共に参画することが重要です。本市が平成17年7月に3,000人の市民を対象に行ったアンケートにおいて「政策・方針を決定する場に男女が平等に参画していくために必要なこと」を尋ねたところ、「女性みずからが政策・方針を決定する場に参画することに関心を持つこと」という回答が最も多く、次いで「男女の意見を等しく政策に反映していくことの大切さを広く啓発すること」という結果になりました。

#### ●京都市の取組

本市では「きょうと男女共同参画推進プラン」において、平成22年度末までに「審議会等において男女いずれの割合も35%を下回らない委員構成の確保」を目標に定めています。また、その中間目標として、平成18年度末までに審議会等への女性の登用率30%確保を掲げ、登用計画を策定するなど、全市的な取組を行っています。

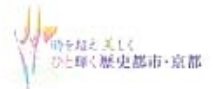
平成17年度末の女性の登用率は28.9%で、前年同期より1.2ポイント上昇しました。一方、専門的知識や技術を必要とする分野では女性の進出が少なく、審議会等における女性の登用率も低い傾向にあります。引き続き、啓発活動を行うなど、目標達成に向けて積極的な取組を進めてまいります。

京都市の審議会等における女性委員登用状況推移

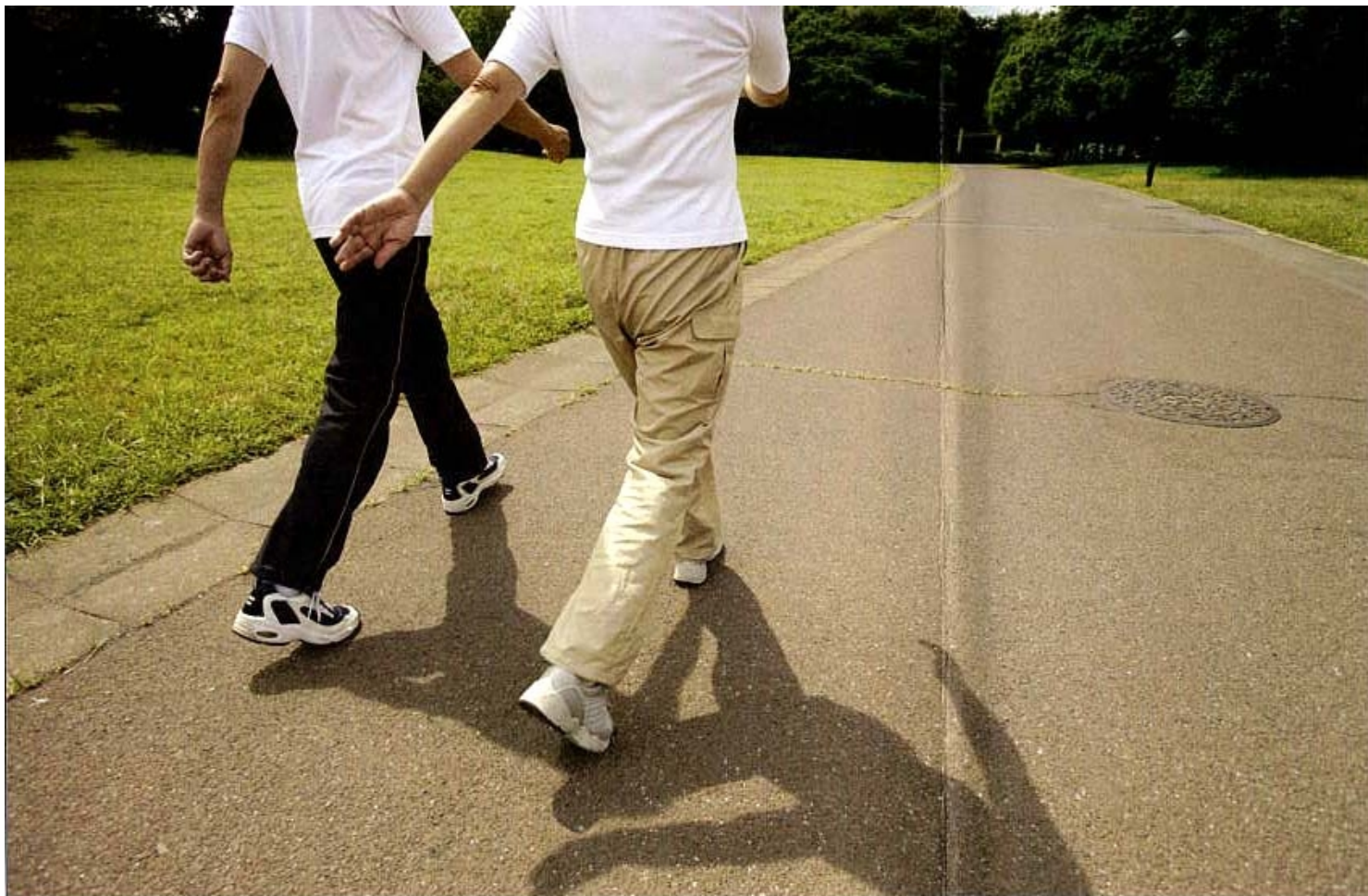


京都市文化市民局  
共同参画社会推進部男女共同参画推進課  
〒604-8571 京都市中京区寺町通御池上  
Tel.075-222-3091 Fax.075-222-3223  
<http://www.city.kyoto.jp/bunshi/danjo>

財団法人京都市女性協会 企画・編集  
〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下角即射山町262  
Tel.075-212-7490 Fax.075-212-7460  
<http://wings-kyoto.jp>







京都市立病院  
女性総合外来受診者数  
(平成15年10月～平成18年3月)



※京都市立病院資料より

## 性差医療について

最近、少しずつ増えている「女性専門外来」「男性専門外来」という病院の外来窓口をご存知でしょうか。京都市では、平成15年10月に京都市立病院に女性総合外来が設けられ、開設から平成17年度末までの間に850名の方が受診されています。さらに平成18年4月には男性専門外来が設けられました。

健康診断を受けるに手にする検査結果の一覧表。そこにはさまざまな数字が並んでいますが、健康の目安となる基準値が男女で異なる項目があることにお気づきですか。これは性別によって医学的な基準値が異なることの一例ですが、近年、こうした男女の生物学的性差に着目して、診療を行おうという性差医療の取組が広がりつつあります。

性差医療は、アメリカで1980年代以降研究が進んでいる分野です。従来、産科や婦人科等の一部専門科を除いて、医療現場では男女の性差を特に考慮することなく、男性も女性も同じように診療がなされてきました。しかし、近年男女間には、病気の発症率や症状に違いがあるとともに、病気の原因や治療法も異なることがわかってきたため、性差を考慮した医療の

必要性が認識されるようになりました。こうした流れの中で、日本でも男性には男性の、女性には女性の専門科を開設する病院が増えています。

現在、女性専門外来や男性専門外来では、個室診療によりプライバシーへの配慮を重視したり、一人あたりの診察時間を長めにとったりするなど、患者のニーズに合わせてさまざまな取組が行われています。特に、同性の医師に診察してもらおう方が細かな症状まで話しやすく悩みを理解してもらいやすいという患者の希望に応じて同性のスタッフを配置する病院は多いようです。

子どもには小児科が、高齢者には年齢に応じた処方があるように、性差を考慮した医療体制が整い、私たち一人一人に適切な診療が行われる環境づくりが、今後ますます期待されます。